

第1回金沢方式あり方検討懇話会の開催結果について

令和6年8月9日
総務常任委員会資料
都市政策局企画調整課

資料番号

1

1 概要

(1) 日時等

令和6年7月22日（月）15:30～17:00（金沢市役所第二本庁舎2階2202会議室）

(2) 議 事

事務局からの資料説明

地域における課題等に関する意見交換

(3) 主な意見

<金沢方式>

- ・金沢方式の特徴は、地域主導、ボランティア精神、地域による一定の負担の3つである。

<地元負担>

- ・地元負担が現在の割合となった当時は、人口が増加している時期であり、その割合が現在まで続いているため、当時よりは負担感が大きく感じる。
- ・公民館に関しては、運営費にも地元負担が入っており、地域で集めた町費等の配分先として最も大きい。
- ・地元住民にとって地元負担は、いつも利用している公民館や地域の安全安心につながる消防分団のポンプ車などの役に立っているという意識があり、地域にとっての大切な財産であると感じている。
- ・金沢方式があったおかげで、地域の人たちが地域活動に協力的な様子が見受けられる。
- ・地元が負担することで、地域の人々の意識形成の重要な要素となっているため、この方式をこれからも継続していくべき。
- ・地元負担がどのように使われているのかを広く知らせていく取り組みが必要。

〈周知、広報〉

- ・地域コミュニティに関する全町会長へのアンケート結果で、50歳代の若い町会長を中心に、金沢方式のことがほとんど知られていない。
- ・金沢方式という素晴らしいまちづくりの文化の中で、地域コミュニティが維持されてきたことを広く市民に周知していくことが必要。
- ・市民に向けて、校下（地区）でどのような活動が行われているのか、金沢方式をさらに分かってもらうための取り組みが必要。
- ・公民館長にも、金沢方式の特徴が浸透していないと感じる。
公民館は基本的にボランティアで運営しているが、なぜ担い手が集まらないのか、なぜ希望する人が少ないのか、なぜ町会に入らないのかを考えると、活動の周知不足を感じる。

〈担い手〉

- ・地域では様々な行事が開催されているが、これからの地域コミュニティを維持するためには、これまでとは違う方向で新たな行事や事業を考えて、次世代につないでいく工夫をしていくことが金沢方式の持続につながるのではないかと。
- ・消防分団では、担い手不足が課題であり、金沢方式を通して地域主導やボランティア精神の意識醸成が大切。
- ・児童館や放課後児童クラブでも、担い手不足が課題。

〈その他〉

- ・地域コミュニティの区割りを見直すべきとの意見が見受けられるが、この懇話会で検討を行うことが適切なのか疑問。あくまで地域から見直しの意見があって、その上で検討されるべき。
- ・消防分団員が極端に少ないところは、消防分団の区域の見直しや消防分団の合併も将来的な検討課題。

2 今後の予定

8月29日	第2回懇話会	課題の整理、見直しの方向性 など
10月～11月頃	第3回懇話会	取りまとめ